

Ⅱ 特別連載 Ⅱ

科学技術  
振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第363回

### 高知大学からの報告



福原秀雄  
(高知大学  
医学部  
光線医療センター助教)

#### マレーシアから招へい

#### がんに対する 光線治療・診断を体験

高知大学医学部光線医療センターは今年3月8日～13日、マレーシアサイエンス大学およびマレーシアアプトラ大学から教員2名、大学院生6名を招へいし、科学技術振興機構（JST）「さくらサイエンスプログラム」（A・科学技術体験コース）を実施しました。光線医療センターの見学や病院長への表敬訪問のほか、高知の医療の状況やマレーシアの基礎研究を含めた医療の状況についての意見交換を行いました。

#### 〈3月9日〉

午前中は光線力学医療に関する特別講演を東京工業大学の小倉俊一郎先生に実施して頂き、光線医療への理解を深めました。午後からは手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた手術見学およびALAPDD（膀胱癌）を用いた手術見学を実施し、臨床の最先端医療について理解を深めました。実際の手術を感じる事が出来たことで、イメージング技術を用いた医療に対する基礎研究のモチベーション向上に繋がりました。また、皆で光線医療の実臨床の最先端の技術を見学し、現在の問題点と将来の展望について討論を行いました。

#### 〈3月10日〉

Photodynamic Medicine (PDM) salonを実施し、各々の研究成果を一人ずつプレゼンし、意見交換を実施しました。多くの質問が投げかけられ、終始活発な意見交換と質りました。具体的には、新規光感受性物質に関する発表や今後の動物実験の予定などを討論でき、これまで以上に研究内容の理解を深める事ができました。さらに共同研究の進捗状況についても確認し、今後も研究を継続する

プログラムスケジュール	1日目 (3月8日)	招聘者らが羽田空港到着、教員が出迎え 高知市まで移動
	2日目 (3月9日)	オリエンテーション、特別講演、手術見学 夕より意見交換会
	3日目 (3月10日)	PDM salonの実施、病院長への表敬訪問 華道・茶道体験、夕より医学部生と意見交換会
	4日目 (3月11日)	ロボット手術シミュレータ体験 医学部学生との意見交換会 (Students' café)
	5日目 (3月12日)	高知市内の視察・観光
	6日目 (3月13日)	Future Collaborative Workshopの開催
	7日目 (3月14日)	羽田空港から出国、担当教官が見送り

事を確認しました。光線力学医療の臨床への応用に向けた取り組みについての意見交換は大変有意義なものとなりました。

#### 〈3月11日〉

本学医学部生の指導により華道・茶道を体験し、日本文化への理解を深めました。皆さん初めての体験でしたが、熱心に指導を受け上手に花を生けていました。生けた花と共に記念撮影もあり、喜んで頂けました。医学部生と密に交流できたことは、双方の若者達にとって良い刺激となったようです。

さくらサイエンスプログラムを通じて、マレーシアの学生に日本の光線医療の研究環境および素晴らしい日本文化を体験してもらえたと思います。また、医療における光線技術の重要性および将来性についての理解が深まり、基礎研究から臨床応用への流れをより身近に感じる事が出来たと思います。さらには、日本の光線医療における最先端医療をマレーシアからの基礎研究者が実際に体験でき、今後の研究モチベーションの向上に繋がったと確信しています。特に大学院生にとっては、研究を通じてさらなる飛躍となる体験となったのではないのでしょうか。

今回の交流が、マレーシアサイエンス大学、マレーシアアプトラ大学および本学にとって、非常に意義深く、大きな刺激になったことを



PDMサロンでの発表および意見交換



高知大学医学部附属病院で花崎和弘院長との意見交換



華道を体験する招へい者ら

最後に、プログラム全体を通じて、様々な事柄に対応して頂いたJST「さくらサイエンスプログラム」の関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。



光線医療に関する手術見学前の招へい者ら(手術準備室で撮影)

光線医療センターにとつて、今回の「さくらサイエンスプログラム」による事業の実施によりこれまで以上に実りの多い国際交流が実施でき、マレーシアサイエンス大学、マレーシアポトラ大学および高知大学にとって大きな飛躍となった事を確信しております。

■ 今後の展望

高知大学医学部光線医療センターは、光線医療を中心とした研究開発に取り組み独自の組織です。光力学診断法や光線療法に関する基礎研究および臨床研究の取り組みを、高

実感しており、今後の研究および教育に大いに期待が持てるかと確信しています。我々にとっても、COVID-19により、一旦途絶えていた対面での交流を再開できる良い機会となりました。対面での交流は、オンラインで実施するより多くの意見や情報交換ができて、改めてその重要性を実感することができました。

知大学医学部から開発・発信しています。さくらサイエンスプログラムを通じての交流により、若手研究者に対する教育、国際医療、最先端医療への取り組みの具現化は双方において大変有意義であったと実感しています。マレーシアから8名もの若手研究者を招へいでき、光線医療に関する基礎研究および臨床研究の最前線の現場を直接見学して頂いたのは大変大きな成果であったと考えます。今回のこの交流を通じて、さらにネットワークを強化し、日本とマレーシアの研究・医療の架け橋をなす事を目指していきます。さらにCOVID-19により、一旦途絶えていた対面での交流を再開でき、改めて対面での交流の重要性を実感しました。このような交流を通じて、国際的な視野を持つ若手研究者・医療者の育成に引き続き取り組んでいきたいと思